

# 社会資本総合整備計画（防災・安全） 事後評価シート

高座渋谷駅周辺の安全で良好な市街地を形成するための都市基盤整備

平成 28 年 3 月

神奈川県大和市

計画の名称	1 高座渋谷駅周辺の安全で良好な市街地を形成するための都市基盤整備				
計画の期間	平成 22 年度～平成 26 年度（5 年間）	交付団体	大和市		
計画の目標	高座渋谷駅周辺の都市基盤整備が未整備で無秩序な土地利用が行われている現状を解消するため、都市基盤整備を推進することにより、災害に強い健全な拠点市街地及び住み良い住環境を形成する。				
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難地到達エリアの拡大</li> <li>・消防活動困難区域の解消</li> <li>・高座渋谷駅周辺の見守りエリアと時間</li> <li>・コミュニティバス利用者の増加</li> </ul>				
定量的指標の定義及び算定式		定量的指標の現況値及び目標値			備考
都市基盤整備により 4m以上に整備された道路、新たに歩道の整備が行われた道路、及び地域防災計画等で位置づけされた緊急輸送路を活用した避難地までの到達時間が向上したエリアが増加する。	当初現況値		中間目標値	最終目標値	
	H22 当初		-	H26 末	
	$\frac{\text{避難地到達エリアの拡大} = \text{従前の避難地までの到達距離が 5 分までのエリア} / \text{都市基盤整備後に整備された道路により避難地までの到達時間が 5 分までのエリア}}{\text{都市基盤整備後に整備された道路により避難地までの到達時間が 5 分までのエリア}}$		69.5%	-	
消防自動車の出入りができる幅員 6m以上の道路から、ホースが到達する一定距離（140m）以上離れた区域である消防活動困難区域を解消する。	当初現況値		中間目標値	最終目標値	
	H22 当初		-	H26 末	
	$\frac{\text{幅員 6m以上の道路から 140m以内の面積} / \text{施工地区面積}}{\text{幅員 6m以上の道路から 140m以内の面積} / \text{施工地区面積}}$		92.5%	-	
街頭防犯カメラの設置により、犯罪発生の抑止及び市民等の体感治安の向上が図られるエリアと時間が増加する。	当初現況値		中間目標値	最終目標値	
	H22 当初		-	H26 末	
	$\frac{\text{高座渋谷駅周辺において犯罪発生抑止等を目的とした見守りを行うエリアと 1 日当りの時間 (H22 当初は防犯の拠点として高座渋谷駅西口駅前広場に開設された安全安心ステーション職員が行っている主な見守りエリアと勤務時間)}}{\text{高座渋谷駅周辺において犯罪発生抑止等を目的とした見守りを行うエリアと 1 日当りの時間 (H22 当初は防犯の拠点として高座渋谷駅西口駅前広場に開設された安全安心ステーション職員が行っている主な見守りエリアと勤務時間)}}$		3,000 m <sup>2</sup> 8 時間/日	-	
バス等の乗降場等上屋整備によりコミュニティバス利用者の利便性が増し、利用者数が増加する。	当初現況値		中間目標値	最終目標値	
	H22 当初		-	H26 末	
	$\frac{\text{コミュニティバス利用者の増加} = \text{整備後のコミュニティバスの年間利用者数} / \text{従前の年間利用者数}}{\text{コミュニティバス利用者の増加} = \text{整備後のコミュニティバスの年間利用者数} / \text{従前の年間利用者数}}$		216,652 人	-	
全体事業費	合計 (A + B + C)	A 基幹事業	B 関連社会資本整備事業	C 効果促進事業	C / (A + B + C) 効果促進事業費の割合
	5,125 百万円	5,096 百万円	0 百万円	29 百万円	0.6%

評価結果

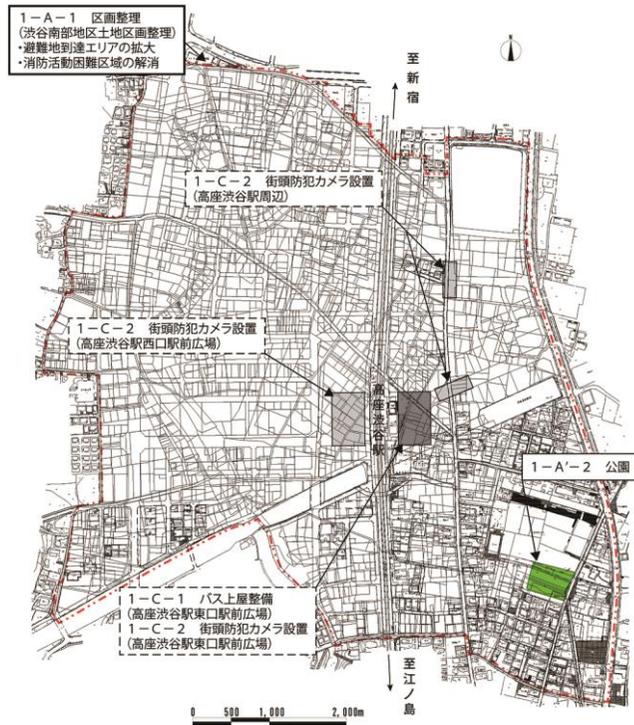
1 事業の実施状況	当初計画に位置づけ実施した事業		事業名							
		基幹事業	渋谷南部地区土地区画整理事業					提案事業	なし	
		事業内容等	都市再生区画整理 42.0ha							
		効果促進事業	バス等の乗降場等上屋整備 街頭防犯カメラの設置							
		事業内容等	バス上屋整備 L=100m 高座渋谷駅周辺：4ヶ所（10台）							
			事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし						
			効果促進事業	なし						
	新たに追加した事業		基幹事業	なし						
			効果促進事業	なし						
交付期間の変更		当初	平成 22～平成 26			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				
		変更	なし							
2 成果目標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値	目標達成度	達成見込み	総合所見
			基準年度		目標年度		評価値			
	指標 1	避難地到達エリアの拡大	69.5%	H22	92.6%	H26	100.0%	○		土地区画整理事業による整備が進み、避難地（公園等）が整備されたことにより避難地到達エリアが拡大された。
	指標		従前値		目標値		数値	目標達成度	達成見込み	総合所見
			基準年度		目標年度		評価値			
指標 2	消防活動困難区域の解消	92.5%	H22	100.0%	H26	100.0%	○		土地区画整理事業による整備が進み、6m以上の道路が整備されたことで、6m以上の道路から140mのエリアが拡大され、地域の安全性が高まった。	

2 成果目標の達成状況	指標		従前値		目標値		数 値	目標達成度	達成見込み	総合所見
	指標3	バス等の乗降場等上屋整備	216,652人	H22	228,697人	H26	評 価 値			
							— (微増)			
	指標		従前値		目標値		数 値	目標達成度	達成見込み	総合所見
	指標4	街頭防犯カメラの設置	3,000m <sup>2</sup> 8時間/日	H22	8,900m <sup>2</sup> 24時間/日	H26	評 価 値			
							100%			
								○		防犯カメラが設置されたことにより、犯罪防止につながると共に、映像を資料として提供しました。

成果の概要

渋谷（南部地区）土地区画整理事業

計画の期間	平成 22 年度～平成 26 年度（5 年間）			
計画の目標	計画の成果目標	従前値（H22）	目標値（H26）	評価値（H26 末時点）
高座渋谷駅周辺の都市基盤が未整備で無秩序な土地利用が行われている現状を解消するため、都市基盤整備を推進することにより、災害に強い健全な拠点市街地及び住み良い住環境を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難地到達エリアの拡大</li> <li>消防活動困難区域の解消</li> <li>高座渋谷駅周辺の見守りエリアと時間</li> <li>コミュニティバス利用者の増加</li> </ul>	<p>69.5%</p> <p>92.5%</p> <p>3,000 m<sup>2</sup></p> <p>8 時間/日</p> <p>216,652 人</p>	<p>92.8%</p> <p>100%</p> <p>8,900 m<sup>2</sup></p> <p>24 時間/日</p> <p>228,697 人</p>	100%



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業による整備が進み、避難地や6 m以上の道路が整備されたことにより、地域の安全性が高まった。</li> <li>防犯カメラの設置が犯罪発生抑止に役立ち、市民の体感治安の向上が図られた。</li> <li>他事業との連携により、安全で安心な市街地が形成されると共に、良好な居住環境が形成された。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災性を高めるため、避難場所の周知など、市民と一体となって取り組んでいくことが重要である。</li> <li>防犯カメラについては、更なる防犯対策の観点から、人が多く集まる場所などへの設置を検討する必要がある。</li> </ul>

## (1) 成果の評価

## ①計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他 ( )		●			

## ②計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要(事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
土地区画整理事業	渋谷(南部地区)土地区画整理事業	5,096百万	土地区画整理事業	5,096百万	都市再生区画整理	なし	影響なし	●	

## ③計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方	従前値		目標値		数 値	目標達成度	備 考	
			基準年度		目標年度				
指標 1	避難地到達エリアの拡大	避難地到達エリア/整備区域	69.5%	H22	92.8%	H26	事後評価	確定 ● 見込み ○	
指標 2	消防活動困難区域の解消	消防活動困難区域/整備区域	92.5%	H22	100.0%	H26	事後評価	確定 ● 見込み ○	
指標 3	バス上屋整備	コミュニティバス利用者数	216,652人	H22	228,697人	H26	事後評価	確定 — 見込み —	他事業により整備
指標 4	防犯カメラの設置	防犯カメラ設置箇所及び撮影時間	0ヶ所 8時間	H22	10ヶ所 24時間	H26	事後評価	確定 ● 見込み ○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標 1	土地区画整理事業の進捗により、公園等が整備され、避難地到達エリアの範囲が目標に達した。	なし
指標 2	土地区画整理事業の進捗により、6m以上の道路が整備されたことにより、消防活動困難区域が解消された。	なし
指標 3	コミュニティバス利用者の利便性が向上し、利用者数が増加した。	※バス上屋整備については、他事業により整備を行った。
指標 4	犯罪防止及び市民等の体感的治安が向上した。	なし

(2) 今後のまちづくり方策の作成

①まちの課題の変化

事業前の課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭隘道路の解消</li> <li>・公園整備</li> <li>・駅周辺の安全性の向上</li> <li>・バス停環境の整備等</li> </ul>	道路・公園等の基盤整備が進み、安全な市街地が形成された。 防犯カメラの設置により、防犯性が向上した。 バス停環境が整備され、利用者が増加した。	なし	なし

②今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
効果を持続させるために行う方策	安全・安心な市民生活の維持	当該地区は、土地区画整理事業による基盤整備が進み、安全性・防災性が飛躍的に向上した。 今後は、地域コミュニティの形成等を進める意味からも、地域での防災意識の向上を図っていく必要がある。 また、避難場所に位置づけられている地区内の公園について、防災マップなどに明記し、周知を図るなど、市民の安心・安全なくらしの支援を進めていく。	なし

改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	なし		

(3) 事後評価原案の公表

事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	平成 27 年 12 月 1 日 ～12 月 31 日	平成 27 年 12 月 1 日 ～12 月 31 日	担当課への郵送・FAX	街づくり計画部 渋谷土地区画整理事務所 事業管理課
広報掲載・回覧 ・個別配布	広報に市のホームページ及び窓口等で原案を公表している旨を記載	平成 27 年 12 月 1 日号			
その他	窓口及び公共施設での閲覧	平成 27 年 12 月 1 日 ～12 月 28 日			

住民の意見

なし

(4) 大和市街づくり推進会議の審議

委員構成	実施時期	担当部署	委員会の設置根拠
会長 饗庭 伸 (首都大学東京都市環境学部准教授) 副会長 吉田 洋子 (吉田洋子まちづくり計画室) 学識経験者 1名 コンサルタント 2名 関係団体 2名 街づくり組織 1名 街づくりサポーター 1名 公募市民 2名	平成 28 年 2 月	街づくり計画部 街づくり推進課	地方自治法 (昭和 22 年法律第 67 号) 第 138 条の 4 第 3 項

審議事項	委員会の意見	
事後評価手続き等にかかる審議	成果の評価	概ね妥当であると確認された
	事後評価原案の公表の妥当性	概ね妥当であると確認された
	事後評価の手続きの妥当性	概ね妥当であると確認された
今後のまちづくりについての審議	今後のまちづくり方策の妥当性	概ね妥当であると確認された
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どれくらい人口が回復したか、基盤整備前後で居住者の属性はどのように変わっているかなどといった点を、長期的に見ていくことが有効だと思う。</li> <li>• 若者と高齢者との共存について考えることは“どこに何をを入れていくか”戦略を絞るヒントとなる一つの例になるのではないかと。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基盤整備により車道や歩行者専用道などは広がったが、商業エリアにおいては整然としたため、やや閑散とした印象を抱きがちになってしまう。</li> <li>• 駅前の基盤整備は地価上昇を招き、起業・ビジネスを目的とした若者の流入の阻害要因となる可能性があるため、この点の手当てを国や自治体で考えてほしい。若者がいないまちは面白くない。</li> </ul>	